

## 地域の概要及び課題

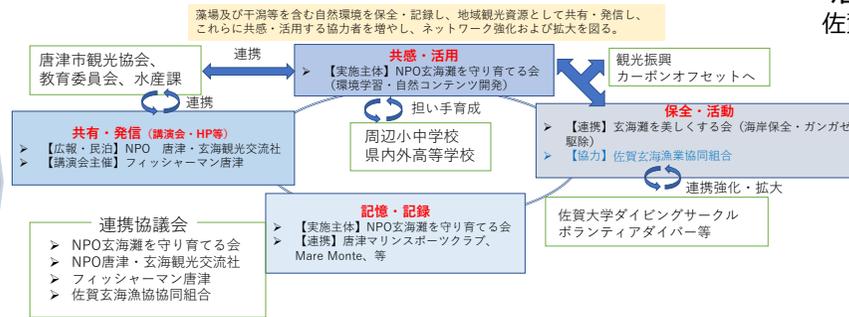
### 【地域の概要】

- 玄海国定公園や日本三大松原を有す風光明媚な地
- 名護屋城跡、唐津城など文化・歴史的景観も残る
- イカの町として、呼子町には全国から観光客が訪れる

### 【課題】

- 気候変動の影響により漁業資源減少し観光にも影響
- 海離れと人口減少が進んでおり関係人口の増加が必要
- 里海づくりのための好循環連携体制づくりが急務

## 取り組みの実施体制・連携



活動地名  
佐賀県唐津市



## R6年度モデル事業における取組内容および成果

### 海洋環境教育の実施(ESD)

- 地元小学校にて海洋環境教育授業を開催



#### 【成果】

地元の海の魅力と、激変する海の現状について、地元の子もたちが知らない事ばかりの様子で、継続的な周知活動の重要性を痛感した。

### エコツアー(体験)の実証

- 小中学生と大人向けのエコツアー実証を行った

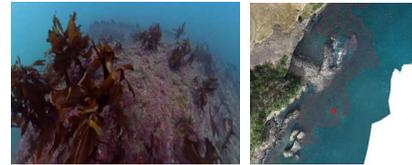


#### 【成果】

環境教育 + 体験が参加者の環境意識の醸成に繋がると実感できた。また、安全面への配慮や宣伝、経済性とのバランス等、課題を把握した。

### 藻場モニタリングの実施

- UAV、ROVによる藻場モニタリング



#### 【成果】

既存資料や現地調査を行い、効果的な保全活動に繋げるための平面的な分布を把握することが出来た。また、過去20～30年で明確に藻場被度が減少していることがわかった。

### 連携ネットワーク構築

- 漁業者、観光業者と連携協議会を設置・運営した



#### 【成果】

周知・教育、体験ツアー、保全活動、の好循環連携に向けた枠組みである体制が整い、里海づくりの輪が広がり始めた。

- 環境学習ツール作成、地元小学校への海洋学習の開催によって、継続的な周知活動を行う。
- 子供体験学習は、送迎や安全面等、実証を継続しつつ、商品化へ繋げる。大人向け体験編は、宣伝や経済性とのバランスが必要であり、実証を継続しつつ、商品力を磨くことが必要である。
- 藻場モニタリングを継続し、対象地域一帯の藻場分布の精度向上を図り、DB化して見える化する必要がある。
- 好循環連携に向けた枠組みである連携協議会を継続し、様々な情報交換や協力を行い、里海づくりの輪を拡大していく。

## 今後の課題および取組方針